

父親・男性研究 II

— 両親の回答比較から —

愛育相談所	川井 尚・庄司順一・安藤朗子・武島春乃・山内浩子 永井桃子・堤 道子
研究企画・情報部	中村 敬
研修部	長坂典子
愛育病院心理福祉室	小玉夕香
愛育幼稚園	岸井慶子
嘱託研究員	渡邊 寛（彩の子ネットワーク）・大藪 泰（早稲田大学） 馬岡清人（日本女子大学）・鈴木真弓（東邦大学医学部附属大橋病院） 栗原佳代子（神奈川工科大学）・平岡雪雄（浦安市教育委員会いちょう学級） 島 智久（浦安市療育センター）・伊藤嘉余子（日本社会事業大学大学院） 山岡テイ（情報教育研究所）・木邨真美（大阪府衛生会附属診療所） 恒次欽也（愛知教育大学）・谷口和加子

【要 約】昨年度は父親研究の第一歩として SCT 法を用いた調査票の作成と SCT の分析方法等について報告した。今年度は本調査票のうち、乳幼児をもつ父親（夫）・母親（妻）の役割に関する質問項目の単純集計と両親の回答比較を行った。調査対象は、父親・母親のペア 448 組である。主な知見は以下のようである。①夫よりも妻の方が、「母親固有の役割」を認識している。即ち夫は、父親固有の役割の認識が妻のそれよりも低い。②最も大事にしたいことについて、夫は「人間としての生き方」をより選択し、妻は「私個人としての生き方」をより選択している。③妻の方が母親として苦悩することが父親のそれよりも強く、母親の育児の困難さを示し、育児不安の発生に関与している。④父親の役割について、妻は「私の相談相手・精神的な支え」を強く求め、一方夫は、妻が求めるほどこの役割を認識していない。このことも母親の育児不安の発生の要因である。

見出し語：父親研究，父親の役割，母親の役割

A Study on Paternal and masculine gender role

Hisashi KAWAI, Junichi SHOJI, Akiko ANDO, Haruno TAKESHIMA,
Hiroko YAMAUCHI, Momoko NAGAI, Michiko TUTUMI, Takashi NAKAMURA,
Wakako TANIGUCHI, Noriko NAGASAKA, Yuka KODAMA, Keiko KISHII,
Yutaka WATANABE, Yasushi OYABU, Kiyoto UMAOKA, Mayumi SUZUKI,
Kayoko KURIHARA, Yukio HIRAOKA, Tomohisa SHIMA, Kayoko ITO,
Tei YAMAOKA, Mami KIMURA, Kinya TUNETUGU

Abstract; In the last year, we reported how to make the questionnaire included the original Sentence Completion Test for Father (F・SCT), and to analyze the SCT, etc.

In the current year, we showed the simple tabulations of the question items about the role of father (husband) and of mother (wife) who has young children, and compared the parents' replies. The subjects of the questionnaire were 448 sets of pairs of a father and a mother.

The results are as follows; 1) Wives are rather conscious of "the role peculiar to a mother" than husbands are conscious of "the role peculiar to a father". 2) Husbands chose "the way of life as a human being" about what to value in life more than wives did, and wives chose "the way of life as an individual" more. 3) Wives are more distressed as a mother, it is stronger than that of fathers. It shows that mothers have the difficulty of child-rearing, and indicates that it cause the mother's anxiety of child-rearing. 4) Wife demands her husband being a adviser and a supporter mentally, and on the other hand, husband does not recognize this role enough. This is also the factor of causing the mother's anxiety of child-rearing.

Key words: study of father, paternal role, maternal role

はじめに

昨年度は、かつてわれわれが行った父親研究を受けながら、あらたな視点に立つ父親・男性研究が必要であることを指摘した。そして、研究方法として父親の生きた声を聞き取るために臨床心理検査法の一技法である文章完成法（SCT）を採用し、この方法の有用性を示した。さらに、この研究方法を柱に据えながら、一方、かつての研究との継続性やダイレクトに意識を問うこともある程度は必要でもあり、少数の質問項目を選定し調査した。ここでは、両親ペア448組の回答を得ることができ、比較検討を行いある程度の知見が得られたので報告する。

I 研究目的

質問紙調査によって得られた子育てについての意識、夫・父親（妻・母親）役割についての意識を夫婦間で比較検討することを目的とする。

II 研究方法

1. 調査方法

昨年度報告した父親用文章完成法・質問紙（F・SCT）ならびに、その妻版にあたる母親用文章完成法・質問紙（M・SCT）を使用して、下記に述べる各地の幼稚園、保育所等を通して配布し、回収した。今回はおもに SCT 以外の項目に関する検討結果を報告する。それらの項目は1. 父親（夫）の役割、2. 子どもとの関わり・子育て、3. 両親との関わり、4. 両親の親としてのあり方、5. 大事にしたい生き方、6. 夫、父親としての苦悩、7. 夫、父親としてのあり方である。

なお、項目1、6の妻版は母親（妻）としてそれぞれ質問している。また、項目7は妻が夫に期待する父親または夫役割のあり方について訊ねている。質問紙の詳細は最終頁に掲載した。

2. 調査対象

調査対象はおもに、幼稚園、保育所等に通所する児をもつ親である。回答する際にはとくに両親が相談したり、見せ合うことなく単独に回答するように求めた。

対象地は東京、秋田、埼玉などである。配布数は正確につかめないところもあるがおおむね80%程度である。なお、今回分析の対象としたのは、年齢が乳幼児（0～6歳）を有する親であり、かつ、両親がペアで回収できたもの448組である。これは全体回収数の45.5%である。ペア回収数が少な

いが、回収した中に子どもの年齢対象外のものが含まれており、それを全体から外すと63.1%がペア回収数となる。

対象者の属性は、夫の平均年齢35.4歳（±5.7）、妻33.1歳（±4.6）、子どもの平均数は1.7人、夫の平均週労働時間50.7時間（±13.2）、妻は33.2時間（±14.7）、夫の勤務形態は主に日勤90.3%、妻は87.2%、妻の仕事では主婦が60.9%、常勤21.3%、パート・アルバイト9.4%、自営業3.6%、休職中2.2%などであった。夫の再婚者は5.6%、妻は2.7%である。夫の両親ともに健在なのは73.8%、妻は77.9%だった。ボランティアなどをしている夫は13.1%、妻は10.6%であり、子どもたちの中で入院経験がある家庭は34.2%、未熟児出生は9.3%、発達に遅れがあるのは3.2%（ただし、夫の回答は2.7%）であった。

3. 結果の整理方法

先に述べたように今回は、SCT 以外の項目であるので両親比較と、一致度をみるためのクロス集計を行った。一連の結果から主なものだけを取り上げて述べる。

III 結果と考察

1. 両親の回答の比較

1) 父親・夫（母親・妻）の役割（表1）

夫は「父親・夫の役割がともに大事」とするものが87.1%であり、妻の「母親・妻役割がともに大事」79.2%よりやや高い。一方、妻による回答で「母親役割が大事」とする割合が16.1%で、夫の「父親役割が大事」は7.2%であり妻の方がやや母親固有の役割を認める人が多いといえよう。また、「夫だけ、妻だけの役割を大事」にするものはほとんどなく、子どもを意識した役割観が認識されている。一方、「家庭よりは社会的な役割が大事」とするものはほとんどなく基本的には家庭がもっとも重視されているといえる。

2) 子どもとの関わりや子育て（表2）

子育ては「夫婦は一体で」というものが、夫54.6%であり、妻の方は49.1%とやや少ない。反対に「夫婦それぞれの持ち場で接する」とするものが妻の方が7ポイント強多い（夫、42.4%、妻49.8%）。上記1)の結果とも考え合わせると、妻の方がやや母親としての固有な役割を認識する人が多いといえよう。このことは、夫の方が建前で回

答するものが多いためとも考えられる。また、夫婦一体と固有の持ち場とするものは夫婦ともにおおむね半々になっており（夫は夫婦一体が多いが）、子どもとの接し方についての考え方に相違があるようである。夫婦間にどの程度、一致がみられるかは後述する。

3) 自分の両親との関わり（表3）

夫婦ともに半数前後が「両親ともに遊んでくれた（関わってくれた）」としているが、妻の方がやや多い（夫43.4%、妻50.6%）また、父親に関してはほとんど差がないが、母親に関しては妻側が多い。これらは、夫側に両親ともにあまり遊んでくれなかったとする割合が、妻側よりも9ポイントほど多いためである（夫21.3%、妻12.1%）。やや夫の方が自分の親との関わりが薄い人が多いといえるだろう。

4) 両親の親としてのあり方（表4）

夫婦とも40%強が「両親ともに良いお手本」とみているが（夫42.2%、妻40.4%）、それとほぼ同じくらいに「両親をお手本とせずに自分たちは自分たちで」という思いもかなり強い（夫43.3%、妻44.2%）。親としてのあり方を自分達でつくっていかうとすることが家庭観や、夫婦観が変容していく元になっていると思われる。一方、世代間伝達を大事にしたい夫婦も多いことも興味深い結果といえるだろう。この項目ではほぼ夫も妻も回答比率は同じといって良い。また、よいお手本とする父親は1.5%に対し母親7.2%であり、父親単独でお手本になる割合が極めて低いことが注目される。

5) もっとも大事にしたいこと（表5）

「人間としての生き方」を夫婦とも第一位にあげることが多いが、夫は66.7%と、妻の56.3%よりも10ポイント高い。逆に、「私個人としての生き方」は妻16.7%、夫6.3%と妻が10ポイント高い。他の選択肢がほぼ同程度なので、ここで相違が出てきているといえるだろう。ここでも、夫にはある種、夫、男性としての建前があり、妻の方が本音を表しているように思える。また、とくにこだわらないとするものも夫12.0%、妻14.1%おり、現代的な風潮の現れのように思われる。

6) 父親・夫（母親・妻）としての苦悩（表6）

上に述べてきた項目に比べてこの項目は夫、妻の見解がはっきり分かれたものといえる。「父親（母親）として苦悩することが多い」のは夫7.3%に

対し、妻が30.6%と圧倒的に割合が高い。また、「夫・父親（妻・母親）として苦悩することがない」では夫44.3%、妻24.0%、「夫（妻）として苦悩することが多い」では夫11.1%、妻5.9%であった。以上から、相対的に妻側の苦悩感情が強く、育児の苦悩がそのまま現れたものといえるだろう。また、妻は夫に比べて「母親として」の役割機能に特定する傾向が強いことがうかがわれる。夫については、夫として、また、父親として、それぞれ役割を求められることによる苦悩を感じているようである。夫は妻に比べて「夫として苦悩する」割合が高いことが注目される。

7) 夫・父親役割について（表7）

この項目は多重回答（2つまで）を認めたものである。その他を含めて10の役割に分けた。これはわれわれがかつて報告した父親役割の研究結果と比較するためのものである。ただし、表現はより簡潔にまた、選択肢も減らした。

表7に示したように妻側は、「妻の相談相手・精神的な支え」（67.4%）、「母親の役割の肩代わりをする」（31.7%）、「仕事を通して経済的保証」（30.1%）、「子どもの社会的自立の援助」（29.5%）などが上位4位までである。夫側は「妻の相談相手・精神的な支え」（38.2%）と「仕事を通して経済的保証」（38.2%）が同順位、「子どもの社会的自立の援助」（36.6%）、「母親の役割の肩代わりをする」（27.9%）が上位4位までである。上位4位までの順位は異なるものの項目は一致している。ただし、妻の第1位、「妻の相談相手・精神的な支え」が7割弱に達するのに夫側は4割弱にとどまっている。即ち、妻側はとにかく自分を支えて欲しいと願う気持ちが強いことがわかる。夫側にその思いが伝わっていないか、伝わっていても役割観としてはさほど重視していないか、妻の期待感に応じられない何かがあるのか、今後の検討課題である。

平成5年度に報告した我々の研究と比較したい。このときの調査では、妻側は「自分の相談相手」（80.5%）、「経済的保証」（72.6%）、「子どもの自立の援助」（67.5%）、「家族を見守る」（66.6%）、夫側は「経済的保証」（73.6%）、「子どもの自立の援助」（70.5%）、「妻の相談相手」（68.1%）、「家族を見守る」（53.4%）であった。つまり順位は別にして、前回も上位4位の項目は夫妻同一であった。なお、前回の調査では「家族を見守る」が夫、妻ともに4位であったので、今回の調査では他がどのように選ばれるかをみるために、この選択肢を外した。

したがって、結果の違いは、「家族を見守る」という項目を外したので、代わりに「母親の肩代わり」が入ってきていることと、全体的に今回は%が低いことである。%については、前回が無制限選択であったのに比べ、2つまでと制限したことによるものが大きい。前は、たくさんの項目を選ぶ人が多かったために比率が高くなったものと考えられる。今回は、2つまでを選んだ結果、選択の仕方が分散したと考えられる。それでも妻側の「妻の相談相手・精神的な支え」が7割弱に達するのは妻たちの夫への相当高い願いといえることにもなるだろう。

妻は、家庭にあっては夫に対して、父親役割よりもまず第1位に、夫役割を求めているということが裏付けられたといえよう。

2. 夫婦の回答の一致度

1) 夫・父親役割と妻・母親役割(表8. 1)

両者の一致率は71. 1%であった。一致率の高いのは「父親・夫(母親・妻)役割ともに大事」とするものが69. 5%に達してほとんどを占める。不一致率の高いのは夫:「父親・夫役割ともに大事」とするものと、妻:「母親役割が大事」とするもので全体の14. 0%であった。これは上述したように、夫よりも妻の方が母親という単一役割を重視していることを示している。

2) 子どもとの関係、育児(表8. 2)

一致率は56. 0%であるが、「夫婦は一体となって子どもと接する」31. 2%、「夫婦はそれぞれの立場で子どもと接する」24. 6%、と一致するものは2極化している。不一致率をみると、夫:「夫婦はそれぞれの立場で子どもと接する」、妻:「夫婦は一体となって子どもと接する」という組み合わせが17. 4%、これと正反対に妻:「夫婦はそれぞれの立場で子どもと接する」、夫:「夫婦は一体となって子どもと接する」との組み合わせが23. 0%であった。夫婦間で「夫婦はそれぞれに」と「夫婦は一体で」という意見が異なる組み合わせの合計が40. 4%もいることから、こうした子どもへの対応の仕方についての考え方の違いがどのような家族関係や親子関係を形成するのか、興味深い知見である。

3) 両親との関わり(表8. 3)

一致率が最も低く、31. 3%であった。それぞれ氏も育ちも違うのであるから一致率が低くてもおかしいことではない。不一致率も比率に若干の違いがあるもののいろいろな組み合わせがあることが示された。

4) 両親のあり方(表8. 4)

お手本に関しては42. 4%の一致率であった。比較的高かったのは、「両親よりも自分たちなりにやっていきたい」が22. 3%、ついで、「両親ともに良いお手本に」が19. 4%であった。不一致率が高いのは、夫:「両親ともに良いお手本に」、妻:「両親よりも自分たちなりに」のペアが16. 5%、その逆で妻:「両親ともに良いお手本に」、夫:「両親よりも自分たちなりに」のペアが14. 0%である。つまり、30. 5%が両親の親としてのあり方に対する見解を異にしなが、自分たちの親としてのあり方を模索していると言える。かならずしも、両者の見解が一致しているから良いとも言い切れないが、こうした違いが夫婦の関係や親子関係の形成にどのような影響をもたらしていくものか注目したい。

5) 大事にしたい生き方(表8. 5)

一致率は45. 7%で、選択肢(7つ)が多い割に一致度は比較的高いと言え、これは「人間としての生き方」で40. 0%の一致をみたためである。不一致のパターンは多く、その中では夫:「人間としての生き方」、妻:「私個人としての生き方」で10. 9%、夫:「人間としての生き方」、妻:「とくにこだわらない」7. 5%の順に高かった。

これらの結果から、夫の側は建前的な生き方を大事にしているのに対して、妻の側は個人としての生き方、また夫よりも生き方にこだわりのなさを示しており、ここに男性的、女性的な一つの側面が示されていると考察される。

6) 父親(母親)としての苦悩(表8. 6)

一致率は2番目に低く、36. 8%であった。「夫・父親(妻・母親)として苦悩することが多い」16. 9%、「夫・父親(妻・母親)として苦悩することはない」15. 5%の一致率を示した。不一致をみると、夫:「夫・父親として苦悩することはない」、妻:「妻・母親として苦悩することが多い」とする組み合わせが14. 8%にも達する。反対に夫:「夫・父親として苦悩することが多い」、妻:「妻・母親として苦悩することはない」との組み合わせは5. 5%に過ぎない。そして、夫:「夫・父親として苦悩することが多い」と妻:「母親として苦悩することが多い」12. 5%、さらに夫:「夫・父親として苦悩することはない」、妻:「母親として苦悩することが多い」との組み合わせが11. 5%に達する。

ここから妻が妻または母親、あるいは両方の役割に苦悩していても、夫は夫として・父親として苦悩

していない割合（28.6%）が高い。自らの役割に苦悩しない夫に対して、妻または母親、あるいは両方の役割で苦悩する妻が多いといえよう。夫のそうした思いが妻に伝われば妻の苦悩はより深まり、育児にも困難を来すことになるであろう。このことはわれわれの一連の育児不安研究でも明らかになっており、重要な知見といえる。

7) 夫・父親役割について

この設問は、夫・父親の役割として「あてはまる」ものを以下のその他を含めた10の選択肢から2つ以内で回答してもらったものである。

7-1) 母親役割の肩代わり (表9.7.01)

「母親の肩代わり」の一致率は66.8%で、そのうち「あてはまらない」が51.6%と半数に達する。「あてはまる」の一致率は11.2%に過ぎない。不一致をみると妻：「あてはまる」、夫：「あてはまらない」20.5%いる。つまり、妻が夫に期待する役割に答えていない夫が2割いるということになる。

7-2) 経済的な保証 (表9.7.02)

「経済的な保証」の一致率は、63.7%であった。夫婦ともに「あてはまる」は16.5%であった。夫が経済的保証と思っても妻がそうは評価しないのは21.7%であり（逆の組合せは13.6%）、夫の思いは通じてないとも言える。

7-3) 緊急時の指導的役割 (表9.7.03)

「緊急時の指導的役割」の一致率は80.6%で、そのうち「あてはまらない」で一致している割合が77.9%を占め、夫妻とも選択していないことがわかる。しかし、7-2)と同様にここでも夫が「あてはまる」、妻が「あてはまらない」が12.9%で逆の組み合わせの6.5%よりも高く、夫の思いはあまり評価されていない。

7-4) 日常生活全般に指導的役割 (表9.7.04)

「日常生活全般に指導的役割」の一致率は、89.1%と高率であったが、「あてはまらない」で一致している割合が88.2%で、夫側も妻側もともにほとんど選ぶ人がいなかったというのがその理由である。その分、不一致率も低い。

7-5) 妻の相談相手・精神的な支え (表9.7.05)

「妻の相談相手・精神的な支え」の一致率は52.0%で高いとは言えない。夫婦ともに「あてはまる」としているのは28.8%に過ぎない。妻が「あてはまる」、夫が「あてはまらない」とするペアが38.6%もいて、夫婦ともに「あてはまる」よりも10ポイント弱も多い。妻が支援を夫に求め

ていてもその声が届いてない夫婦が大変多いことを示している。このことは、妻が子育てをしていくための家庭環境が整っているとは言えないことを示し、育児に困難を示し、母親の育児不安を生み出す土壌となっているものと考ええる。

7-6) 子どもの社会的自立の援助 (表9.7.06)

「子どもの社会的自立の援助」は61.1%の一致率であった。そのうち夫婦ともに「あてはまらない」が47.5%である。夫が「あてはまる」、妻が「あてはまらない」が23.0%で、その逆の組合せは15.8%であり、ここでも夫の思いが妻には同じように評価されていない。

7-7) 客観的な立場で子育て、母子関係支援 (表9.7.07)

「客観的な立場で子育て、母子関係を援助する」の一致率は、90.8%と高率であったが、そのうち夫婦ともに「あてはまらない」とする割合が90.4%を占め、この項目を選択する人がほとんどいなかったというのがその理由である。その分、不一致率も低い。

7-8) 格別なことはなく自分は自分で (表9.7.08)

「格別のことはしないで、自分は自分でやっていく」の一致率は96.7%であり、その全てが夫婦ともに「あてはまらない」であった。ここでやや気にかかるのは、夫が「あてはまる」、妻が「あてはまらない」という組み合わせの夫婦が3.1%いることである。つまり、自分のことしか考えず、家庭を顧みない夫がいるということであり、要注意家庭、ハイリスク家庭ということになるのではなかろうか。

7-9) 父親・夫という固有の役割はない (表9.7.09)

「父親・夫という固有の役割はない」の一致率は86.4%と高率であったが、この項目も夫側も妻側もほとんど選ぶ人がいなかったというのがその一致の理由である。ただし、7-8)と同様に夫が「あてはまる」、妻が「あてはまらない」というペアが9.6%いることである。これもまた、要注意項目といえるだろう。

IV まとめ

以上より、本研究で得られた主な知見をまとめる以下のようなものである。

- ① 夫よりも妻の方が「母親固有の役割」を認識している。即ち、母親としての単一の役割を重視している。換言すると、夫は、父親固有の役割の認識が妻のそれよりも低い。

- ② 最も大事にしていることについて、夫は「人間としての生き方」をより選択し、妻は「私個人としての生き方」をより選択している。このことは、夫は建前的ともいえるような生き方を、妻は私個人をより大事にした生き方を求めているといえよう。
- ③ 妻の方が母親として苦悩することが、夫が父親として苦悩するより強く、育児の困難さを示している。更に夫婦間の一致度からこの点について検討すると、妻が妻または母親、あるいは両方の役割に苦悩しているが、夫は夫として・父親として苦悩していない割合が高い。このことは、母親の育児に困難をもたらす育児不安の発生に関与するものと考えられる。
- ④ 父親の役割について、妻は「私の相談相手・精神的な支え」を強く求め、夫は妻が求めるほどこの役割を認識していない。この夫婦間のずれが母親の育児不安の発生に関与するものと考えられる。
- ⑤ 夫は父親として「子どもの社会的自立の援助」を役割としているのに対して、妻は夫ほどこの役割を評価していない傾向が示され、妻の側には、この従来的一般概念が通用しなくなっているものと考えられる。
- ⑥ 父親の役割について「格別なことはしないで、自分は自分でやっていく」ことに夫が「あてはまる」、妻が「あてはまらない」とする夫婦が3.1%と低率ながらみられ、注目される。
- ⑦ 「父親・夫という固有の役割はない」について、夫が「あてはまる」、妻が「あてはまらない」とする夫婦が約10%あり、要注意といえる。

以上、夫婦間のずれが著しい項目があり、そのもたらす要因について今後の検討を必要としている。ただし、ここに示した知見は、相談の際の重要な手がかりとなると考える。

今後の課題

本研究の眼目である、SCTの夫婦間比較、属性や質問紙との関連、さらにSCT項目間の関連や、テキスト分析によるSCT反応の関連の検討が次年度以降に残された課題であり、このことにより、父親の役割の明確化をはかりたいと考える。

謝 辞

本研究をすすめるに当たりご協力いただいた各地域の小児科、保育園、幼稚園の先生方、そして、お父さん、お母さんたちに深く謝意を表したい。

文 献

1. 川井 尚ほか：父親・男性研究Ⅰ－父親用文章完成法（F・SCT）の作成，日本子ども家庭総合研究所紀要，203-215，2002.
2. 育児における父親の役割に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究」（平山宗宏主任研究者）平成元年，2年，3年度研究報告書
3. 育児における父親の役割と保健指導に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」（日暮眞主任研究者）平成4年，5年，6年度研究報告書
4. 川井 尚：「育児における父親の役割」小児保健研究，51（6），671-680，1992
5. 川井 尚ほか：育児不安のタイプとその臨床的研究Ⅶ「子ども総研式・育児支援（ミレニアム版）の手引きの作成」，日本子ども家庭総合研究所紀要，159－180，2001.

表1 父親・夫(母親・妻)の役割

			1. 父親・夫(母親・妻)の役割					合計
			父親・夫(母親・妻)ともに大事	父親(母親)役割が大事	夫(妻)役割が大事	家庭よりも社会的役割が大事	その他	
回答者	夫	度数 回答者の %	386 87.1%	32 7.2%	5 1.1%	5 1.1%	15 3.4%	443 100.0%
	妻	度数 回答者の %	355 79.2%	72 16.1%	3 .7%	1 .2%	17 3.8%	448 100.0%
合計			741 83.2%	104 11.7%	8 .9%	6 .7%	32 3.6%	891 100.0%

表2 子どもとの関わりや子育て

			2. 子どもとの関わりや子育て					合計
			夫婦は一体で子どもと接するのがよい	夫婦はそれぞれの持ち場で接するのがよい	母親・妻(父親・夫)が主に接するのがよい	父親(母親)が主に接すればよい	その他	
回答者	夫	度数 回答者の %	242 54.6%	188 42.4%	4 .9%	0 .0%	9 2.0%	443 100.0%
	妻	度数 回答者の %	220 49.1%	223 49.8%	1 .2%	1 .2%	3 .7%	448 100.0%
合計			462 51.9%	411 46.1%	5 .6%	1 .1%	12 1.3%	891 100.0%

表3 両親との関わり

			3. 両親との関わり					合計
			両親ともによく遊んで(関わって)くれた	母親はよく遊んで(関わって)くれた	父親はよく遊んで(関わって)くれた	両親ともにあまり遊んで(関わって)くれなかった	その他	
回答者	夫	度数 回答者の %	192 43.4%	95 21.5%	17 3.8%	94 21.3%	44 10.0%	442 100.0%
	妻	度数 回答者の %	226 50.6%	109 24.4%	15 3.4%	54 12.1%	43 9.6%	447 100.0%
合計			418 47.0%	204 22.9%	32 3.6%	148 16.6%	87 9.8%	889 100.0%

表4 両親の親としてのあり方

			4. 両親の親としてのあり方					合計
			両親ともに良 いお手本	父親はよい お手本	母親はよい お手本	両親を手本に せず自分たち なりに	その他	
回答者	夫	度数 回答者 の %	187 42.2%	10 2.3%	22 5.0%	192 43.3%	32 7.2%	443 100.0%
	妻	度数 回答者 の %	181 40.4%	3 .7%	42 9.4%	198 44.2%	24 5.4%	448 100.0%
合計			368 41.3%	13 1.5%	64 7.2%	390 43.8%	56 6.3%	891 100.0%

表5 もっとも大事にしたいこと

			5. もっとも大事にしたいこと							合計
			父親(母 親)としての 生き方	夫(妻) としての 生き方	人間とし ての生き 方	私個人と しての生 き方	男性(女 性)としての 生き方	とくにな い<くだ わらない>	その他	
回答者	夫	度数 回答者 の %	32 7.2%	4 .9%	295 66.7%	28 6.3%	14 3.2%	53 12.0%	16 3.6%	442 100.0%
	妻	度数 回答者 の %	36 8.0%	3 .7%	252 56.3%	75 16.7%	14 3.1%	63 14.1%	5 1.1%	448 100.0%
合計			68 7.6%	7 .8%	547 61.5%	103 11.6%	28 3.1%	116 13.0%	21 2.4%	890 100.0%

表6 夫・父親(妻・母親)として

			6. 夫・父親(妻・母親)として				合計
			夫・父親(妻・ 母親)として苦 悩することが多 い	夫(妻)として 苦悩すること が多い	父親(母親)と して苦悩するこ とが多い	夫・父親(妻・ 母親)として苦 悩することはない	
回答者	夫	度数 回答者 の %	162 36.8%	49 11.1%	32 7.3%	195 44.3%	440 100.0%
	妻	度数 回答者 の %	174 39.5%	26 5.9%	135 30.6%	106 24.0%	441 100.0%
合計			336 38.1%	75 8.5%	167 19.0%	301 34.2%	881 100.0%

表7 夫・父親の役割(χ^2 自乗検定, 1), 4), 7), 10)はn. s. 他は $p<.05$)

		妻	夫
7. 01)母親の役割の肩代わりをする	度数	142	125
	%	31.7%	27.9%
7. 02)仕事を通して経済的保証	度数	135	171
	%	30.1%	38.2%
7. 03)緊急時, 指導的役割を果たす	度数	41	70
	%	9.2%	15.6%
7. 04)日常生活全般, 指導的役割	度数	24	33
	%	5.4%	7.4%
7. 05)妻の相談相手, 精神的な支え	度数	302	171
	%	67.4%	38.2%
7. 06)子どもの社会的自立の援助	度数	132	164
	%	29.5%	36.6%
7. 07)客観的に母親の育児, 母子関係を援助	度数	28	17
	%	6.3%	3.8%
7. 08)格別のことせず, 自分は自分で	度数	1	14
	%	0.2%	3.1%
7. 09)父親, 夫という固有の役割はない	度数	21	46
	%	4.7%	10.3%
7. 10)その他	度数	15	17
	%	3.3%	3.8%

表8. 1 夫:夫(父)の役割 と 1. 妻:妻(母)の役割 のクロス表

		1. 妻:妻(母)の役割					合計
		母親・妻役割と もに大事	母親役割 が大事	妻役割が大事	家庭よりも社会 的役割が大事	その他	
1. 夫:夫(父) の役割	父親・夫役割と もに大事	308 69.5%	62 14.0%	2 .5%	1 .2%	13 2.9%	386 87.1%
	父親役割が大 事	23 5.2%	6 1.4%	1 .2%	0 .0%	2 .5%	32 7.2%
	夫役割が大事	4 .9%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 .2%	5 1.1%
	家庭よりも社会 的役割が大事	4 .9%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	5 1.1%
	その他	11 2.5%	3 .7%	0 .0%	0 .0%	1 .2%	15 3.4%
合計		350 79.0%	72 16.3%	3 .7%	1 .2%	17 3.8%	443 100.0%

表8. 2 夫:子どもとの関係、育児 と 2. 妻:子どもとの関係、育児 のクロス表

		2. 妻:子どもとの関係、育児				合計
		夫婦は一体と なっており子ども と接する	夫婦はそれぞれ の立場で子ども と接する	母親が主に子 どもと接するの がよい	父親(夫)が主に 子どもと接する のがよい	
2. 夫:子ども との関係、育 児	夫婦は一体と なっており子ども と接する	138 31.2%	102 23.0%	0 .0%	1 .2%	242 54.6%
	夫婦はそれぞ れの立場で子 どもと接する	77 17.4%	109 24.6%	1 .2%	0 .0%	188 42.4%
	妻が主に子ど もと接するの がよい	1 .2%	3 .7%	0 .0%	0 .0%	4 .9%
	その他	2 .5%	6 1.4%	0 .0%	0 .0%	9 2.0%
	合計	218 49.2%	220 49.7%	1 .2%	1 .2%	443 100.0%

表8.3 夫：両親との関わりと3.妻：両親との関わり のクロス表

	3. 妻：両親との関わり					合計
	両親はともによく遊んで(関わって)くれた	母親はよく遊んで(関わって)くれた	父親はよく遊んで(関わって)くれた	両親ともにあまり遊んで(関わって)くれなかった	その他	
3. 夫：両親との関わり						
両親はともによく遊んで(関わって)くれた	97 22.0%	46 10.4%	9 2.0%	28 6.3%	12 2.7%	192 43.5%
母親はよく遊んで(関わって)くれた	56 12.7%	22 5.0%	2 .5%	5 1.1%	10 2.3%	95 21.5%
父親はよく遊んで(関わって)くれた	8 1.8%	3 .7%	0 .0%	3 .7%	3 .7%	17 3.9%
両親ともにあまり遊んで(関わって)くれなかった	40 9.1%	26 5.9%	2 .5%	13 2.9%	12 2.7%	93 21.1%
その他	20 4.5%	11 2.5%	2 .5%	5 1.1%	6 1.4%	44 10.0%
合計	221 50.1%	108 24.5%	15 3.4%	54 12.2%	43 9.8%	441 100.0%

表8.4 夫：両親のあり方と4.妻：両親のあり方 のクロス表

	4. 妻：両親のあり方					合計
	両親ともに良いお手本	父親はよいお手本	母親はよいお手本	両親より自分たちなりに	その他	
4. 夫：両親のあり方						
両親ともに良いお手本	86 19.4%	2 .5%	19 4.3%	73 16.5%	7 1.6%	187 42.2%
父親はよいお手本	5 1.1%	0 .0%	1 .2%	4 .9%	0 .0%	10 2.3%
母親はよいお手本	12 2.7%	0 .0%	1 .2%	8 1.8%	1 .2%	22 5.0%
両親より自分たちなりに	62 14.0%	1 .2%	16 3.6%	99 22.3%	14 3.2%	192 43.3%
その他	13 2.9%	0 .0%	5 1.1%	12 2.7%	2 .5%	32 7.2%
合計	178 40.2%	3 .7%	42 9.5%	196 44.2%	24 5.4%	443 100.0%

表8.5 夫:大事にしたい生き方 と 5. 妻:大事にしたい生き方 のクロス表

	5. 妻:大事にしたい生き方							合計
	母親としての 生き方	妻としての生 き方	人間としての 生き方	私個人としての の生き方	女性としての 生き方	とくにない(こた わらない)	その他	
5. 夫:大事に したい生き方	父親としての 生き方	7 1.6%	14 3.2%	1 .2%	2 .5%	7 1.6%	0 .0%	32 7.2%
	度数 総和の %							
	夫として生き方	0 .0%	1 .2%	2 .5%	0 .0%	1 .2%	0 .0%	4 .9%
	度数 総和の %							
	人間としての 生き方	22 5.0%	177 40.0%	48 10.9%	9 2.0%	33 7.5%	4 .9%	295 66.7%
	度数 総和の %							
合計	私個人として の生き方	1 .2%	15 3.4%	6 1.4%	1 .2%	5 1.1%	0 .0%	28 6.3%
	男性としての 生き方	2 .5%	7 1.6%	1 .2%	1 .2%	3 .7%	0 .0%	14 3.2%
	とくにない(こた わらない)	0 .0%	26 5.9%	14 3.2%	1 .2%	11 2.5%	1 .2%	53 12.0%
	度数 総和の %							
合計	その他	4 .9%	8 1.8%	1 .2%	0 .0%	3 .7%	0 .0%	16 3.6%
	度数 総和の %							
合計	度数 総和の %	36 8.1%	248 56.1%	73 16.5%	14 3.2%	63 14.3%	5 1.1%	442 100.0%

表8.6 夫:夫、父親として と 6. 妻:妻、母親としてのクロス表

	6. 妻:妻、母親として				合計
	妻・母親ともに苦 悩することが多い	妻として苦悩するこ とが多い	母親として苦悩す ることが多い	妻・母親として苦 悩することはない	
6. 夫:夫、父 親として	夫・父親とともに苦悩することが多い	73 16.9%	9 2.1%	54 12.5%	160 37.0%
	度数 総和の %				
	夫として苦悩することが多い	23 5.3%	6 1.4%	10 2.3%	49 11.3%
	度数 総和の %				
合計	父親として苦悩することが多い	13 3.0%	1 .2%	13 3.0%	31 7.2%
	度数 総和の %				
	夫・父親として苦悩することはない	64 14.8%	10 2.3%	50 11.5%	191 44.1%
	度数 総和の %				
合計	度数 総和の %	173 40.0%	26 6.0%	129 29.8%	433 100.0%

表9. 7. 01)夫:母親役割の肩代わり と 7. 01)妻:母親役割の肩代わり のクロス表

			7. 01)妻:母親役割の肩代わり		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 01)夫:母親 役割の肩代わり	あてはまらない	度数	231	92	323
		総和の %	51.6%	20.5%	72.1%
	あてはまる	度数	75	50	125
		総和の %	16.7%	11.2%	27.9%
合計		度数	306	142	448
		総和の %	68.3%	31.7%	100.0%

表9. 7. 02)夫:経済的な保証 と 7. 02)妻:経済的な保証 のクロス表

			7. 02)妻:経済的な保証		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 02)夫:経 済的な保証	あてはまらない	度数	216	61	277
		総和の %	48.2%	13.6%	61.8%
	あてはまる	度数	97	74	171
		総和の %	21.7%	16.5%	38.2%
合計		度数	313	135	448
		総和の %	69.9%	30.1%	100.0%

表9. 7. 03)夫:緊急時の指導的役割 と 7. 03)妻:緊急時の指導的役割 のクロス表

			7. 03)妻:緊急時の指導的役割		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 03)夫:緊急時の指導的役割	あてはまらない	度数	349	29	378
		総和の %	77.9%	6.5%	84.4%
	あてはまる	度数	58	12	70
		総和の %	12.9%	2.7%	15.6%
合計		度数	407	41	448
		総和の %	90.8%	9.2%	100.0%

表9. 7. 04)夫:日常生活全般に指導的役割 と 7. 04)妻:日常生活全般に指導的役割 のクロス表

			7. 04)妻:日常生活全般に指導的役割		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 04)夫:日常生活全般に指導的役割	あてはまらない	度数	395	20	415
		総和の %	88.2%	4.5%	92.6%
	あてはまる	度数	29	4	33
		総和の %	6.5%	.9%	7.4%
合計		度数	424	24	448
		総和の %	94.6%	5.4%	100.0%

表9. 7. 05)夫:妻の相談相手, 精神的支え と 7. 05)妻:妻の相談相手, 精神的支え のクロス表

			7. 05)妻:妻の相談相手, 精神的支え		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 05)夫:妻の 相談相手, 精神 的支え	あてはまらない	度数	104	173	277
		総和の %	23.2%	38.6%	61.8%
	あてはまる	度数	42	129	171
		総和の %	9.4%	28.8%	38.2%
合計		度数	146	302	448
		総和の %	32.6%	67.4%	100.0 %

表9. 7. 06)夫:子どもの社会的自立の援助 と 7. 06)妻:子どもの社会的自立の援助 のクロス表

			7. 06)妻:子どもの社会的自立の援助		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 06)夫:子どもの社会的自立の援助	あてはまらない	度数	213	71	284
		総和の %	47.5%	15.8%	63.4%
	あてはまる	度数	103	61	164
		総和の %	23.0%	13.6%	36.6%
合計		度数	316	132	448
		総和の %	70.5%	29.5%	100.0%

表9. 7. 07)夫:客観的な立場で子育て, 母子関係支援 と 7. 07)妻:客観的な立場で子育て, 母子関係支援 のクロス表

			7. 07)妻:客観的な立場で子育て、 母子関係支援		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 07)夫:客観的 な立場で子育て、 母子関係支援	あてはまらない	度数 総和の %	405 90.4%	26 5.8%	431 96.2%
	あてはまる	度数 総和の %	15 3.3%	2 .4%	17 3.8%
合計		度数 総和の %	420 93.8%	28 6.3%	448 100.0%

表9. 7. 08)夫:格別なことなく自分は自分で と 7. 08)妻:格別なことなく自分は自分で のクロス表

			7. 08)妻:格別なことなく自分は自分で		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 08)夫:格別 なことなく自分 は自分で	あてはまらない	度数	433	1	434
		総和の %	96.7%	.2%	96.9%
	あてはまる	度数	14	0	14
		総和の %	3.1%	.0%	3.1%
合計		度数	447	1	448
		総和の %	99.8%	.2%	100.0%

表9. 7. 09)夫:父親・夫という固有の役割はない と 7. 09)妻:父親・夫という固有の役割はない のクロス表

			7. 09)妻:父親・夫という固有の役割は ない		合計
			あてはまらない	あてはまる	
7. 09)夫:父親・ 夫という固有の 役割はない	あてはまらない	度数	384	18	402
		総和の %	85.7%	4.0%	89.7%
	あてはまる	度数	43	3	46
		総和の %	9.6%	.7%	10.3%
合計		度数	427	21	448
		総和の %	95.3%	4.7%	100.0%

【質問紙調査（父親用）の内容】 *母親用は、父親および夫を母親・妻と変え、同内容を尋ねている。

1) 父親（夫）の役割についてどのように考えますか。（ひとつだけ○）

1. 父親としても、夫としても両方の役割がともに大事である。
2. 父親としての役割の方が大事である。
3. 夫としての役割の方が大事である。
4. 家庭よりも仕事などの社会的役割が大事である。
5. その他

2) 子どもとの関わりかたや子育てについてどのように考えますか。（ひとつだけ○）

1. 夫婦は一体となって子どもと接するのがよい。
2. 夫婦はそれぞれの持ち場で子どもと接するのがよい。
3. 母親（妻）がおもに子どもと接するのがよい。
4. 父親がおもに子どもと接するのがよい。
5. その他

3) あなたの両親との関わりについてはいかがでしたか。（ひとつだけ○）

1. 両親はともによく遊んで（関わって）くれた。
2. 母親はよく遊んで（関わって）くれたが、父親はそうでもなかった。
3. 父親はよく遊んで（関わって）くれたが、母親はそうでもなかった。
4. 両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった。
5. その他

4) あなたの両親の親としてのあり方を見てどう思いますか。（ひとつだけ○）

1. 両親ともに良いお手本だと思う。
2. 父親は良いお手本だが、母親はそうでもない。
3. 母親は良いお手本だが、父親はそうでもない。
4. 両親を手本とするよりも、自分たちなりにやっていきたい。
5. その他

5) あなたがもっとも大事にしたいのはどれですか。（ひとつだけ○）

1. 父親としての生き方 2. 夫としての生き方 3. 人間としての生き方
4. 私個人としての生き方 5. 男性としての生き方 6. とくにない（こだわらない）
7. その他

6) 夫として、父親としていかがですか。

1. 夫としても、父親としても苦悩することが多い。
2. 夫として苦悩することが多い。
3. 父親として苦悩することが多い。
4. 夫としても、父親としても苦悩することはない。

7) 夫・父親として次の中からおもにあてはまるものを2つ以内選んで○をつけてください。

夫に望むものとして次の中から主にあてはまるものを2つ以内選んで○をつけてください。（母親用）

1. 母親の役割を一部担い、育児や家事の援助、役割の肩代わりをする。
2. 仕事を通して経済的な保証をする。
3. いざというときだけ指導的役割を果たし、決断を下す。
4. 日常生活全般にわたって主導的役割を担う。
5. 妻の相談相手になったり、精神的な支えとなる。
6. 子どもが社会的に自立できるように手助けをする。
7. 客観的な立場から母親の子育て、母子の関係を援助する。
8. 格別のことはしないで、自分は自分でやっていく。
9. 父親とか、夫というような固有の役割はない。
10. その他

